



## 染谷亮作の横顔

### 幼心に見た学者の姿に 挑戦心を受け継いで

高梨さんは、染谷亮作のひ孫にあたります。

高梨さんから見た染谷亮作は、「学者さんという印象です。いつも何かに挑戦したり、何やら書をしたためていたりしていました。また、よく縁側で本を読んでいる姿を見ていたので、一年生の頃ひいおじいさんから貰った新井白石の本を、私もまねしてわざわざ縁側までちやぶ台を運んで読んでいましたよ」と話します。

高梨 綾子さん(69)  
今も高梨さんの自宅には染谷亮作が『慈ありて能く勇』と揮毫した書が飾つてあるそうです。「慈愛を持つのは当たり前、志を



染谷亮作と写る小学3年生の綾子さん(左から4番目)

持つて社会に貢献しなさいと受け止めていいます。私が中央小教育史料館のお手伝いさんをして、介護の仕事をしたりしているのは、無意識にひいおじいさんの教えに導かれていたのかもしれないですね」と笑顔で結びました。

「学校は文化の中心で、教育は農村そのものへ」とする延吉の教えから、亮作は教育の大切さを手紙で保護者に訴えたほか、地域の人も学校を利用できるように、学校で産業や文化の催しを開催しました。

また、設計段階から静六に意見を求めており、川間小学校には公園作りの権威の意見が反映されていたとも言えます。

立を誘致しました。

### 今も残る亮作の足跡

亮作は、北総鉄道(現在の東武野田線(アーバンパークライン))で、最後の未着工区間であった粕壁(現在の春日部)駅から清水公園駅の区間を旧川間村を経由したルートにするよう強く誘致します。

昭和5(1930)年に川間駅が開業すると、社会基盤の整備に伴い、市場や物流が充実し始め、川間駅は人と貨物が集まる交流路に

## 今も野田に残る染谷亮作の足跡

川間小学校

今も残る講演台と国旗掲揚台

川間駅と総武鉄道

昭和15年頃撮影

旧校舎の門柱と「朝考夕省」の碑(千葉県立清水高等学校)

中央小学校のクスノキ

興風会館前のヒマラヤスギ

野田市駅前のヒマラヤスギ



東葛北部農業水利大成之碑(船形排水機場内)

亮作は植樹も受け継いだ? 興風会館前に植樹しています。恩師の本多静六も同じく多くの記念植樹をしています。

成長していききました。

また、江戸川と利根川に挟まれた旧川間村は、常に川の氾濫による水害に悩まされてきました。水害の防止に排水能力の増強を訴えた亮作の活動は、船形排水機

場や新川間樋門などを建設する用排水路の大規模整備計画に結びつき、昭和25(1950)年に完成した桐ヶ作から目吹まで続く用排水路は、今も野田市で水害を防ぐ役割を担っています。(文中敬称略)